

飼育環境改善による過長蹄の予防と トレーニングによるケア体制を目指して

○落合 絵美
横浜市立野毛山動物園

野毛山動物園では、現在 2 頭のキリンを飼育している。その展示場は約 580 m²と決して広いとは言えず、過去に飼育していた個体では、過長蹄や関節炎などの症状が見られ、現飼育個体も過長蹄になる可能性は否定できない。

そのため、2013 年から蹄が自然に削れるように、展示場の床材を火山礫に変更し、2014 年からはハズバンドアリーナトレーニングも導入した。すでに 2016 年のキリン研究会で報告しているが、火山礫の更新前後で蹄底中央部が削れる様子が確認できた。また、2016 年に来園したメスでは、展示や同居馴致のため、火山礫を敷いた展示場の使用が制限されていた間に、右前肢の蹄に変形が生じた。しかし、火山礫の展示場を終日使用できるようになると、蹄の状態が回復し、火山礫による削蹄効果が確認された。現在では少なくとも年に 1 回、湿度が上がる春までに、よく歩く場所に火山礫を追加することで蹄の状態を保つことができています。

また、個体の歩き方などによって削れにくい部分があるため、必要に応じて削蹄も行っている。さらに、投薬を目的とした筋肉注射や静脈注射、レントゲン撮影のトレーニングも実施し、治療などが必要な場合に備えている。今後も加齢やケガなどによる運動量の減少や展示状況の変化によっては、過長蹄になる可能性は排除できないため、トレーニング下で必要なケアを行える体制を整えていきたい。